

令和四年十二月号

枯野

佐怒賀正美

憩ふなり荒武者役もセーターに
不時着の神たちの舞ふ枯野かな
白鳥に道は見下ろすものとして
揺れながら八雲抜ける大白鳥
浮上がる反故押し戻し焚火かな

令和四年十一月号

甘噛み

佐怒賀正美

さきがけは天河発ちたり水の龍

バツカスの吃逆しゃっくりおよぶ鰯雲

小鳥日和やプラチナ婚の父母に

天高しゑびすを甘噛みしつつ鯛

初校ゲラ片寄せヘルシーな夜食

令和四年十月号

新涼

佐怒賀正美

新涼や色で動物分けゐる児
秋暑し仲見世に書肆既になし

※昔、雷門入口に伊藤黄雀翁の清水屋書店ありき

鬼灯を銜へ怪盗ルパン去る
月草の露に縋れる宇宙塵
存問は地母神へこそ秋の虹

令和四年九月号

秋風

佐怒賀正美

家内感染なり秋風のうらおもて
眩むほど魔風のよぎる天河かな
ふだんから人を呼び込む生身魂
地の歌のいざなふ穴に蛇入りぬ
たつぷりと虚のある我や天の川

令和四年七・八月号

夜の虹

佐怒賀正美

天地揃ふ梅雨に寝返り覚えては

かたつむり窮屈スマホの縦画面

世界樹に蝮とぐろ局解きたる夜の虹

ごきぶりは地球の味を知ってる

余念なき微志青梅雨の生コン車

令和四年六月号

泳ぎ苦手

佐怒賀正美

ちよろづのデータ蘇生や青葉の夜
青葉して子が雨が寄る人魚像
麦秋の婚九十五歳の励ましも
東尋坊は巨いなる耳白蛇登る
泳ぎ苦手や我また鬼も幽霊も

令和四年五月号

桜蕊降る

佐怒賀正美

叢雲むらぐもを来て春の蚊の行儀よく

遠ちに狂ふれし首領や桜蕊の降る

野遊びのいつしか至る一騎打ち

鬼龍子の次々跳ねる春夜かな

轉りや楷は徳めき四方へ伸ぶ

令和四年四月号

古草

佐怒賀正美

ゆふやみに宇宙卵解く花辛夷
五指の紋それぞれ蠱惑的で春
蛇穴を出でて理不尽なる爆死
古草も猫みち編んでははの庭
百均へビーズ探しに子と春と

令和四年三月号

大蛇神

佐怒賀正美

記憶されし抗原型いくつ春の月

紅梅や疫禍すりぬけ生まれきぬ

紅梅白梅泣いて眠りて赤子微笑

大蛇神出でこよ戦車巻き燃やせ

蛇穴より深き防空壕に耐ふる春

令和四年一・二月号

鮫鰯

佐怒賀正美

日記買ふ宇宙から人還る日に
摸めいて枯野に眠る幻術師
地上絵のごとく鮫鰯均さるる
冬枯や汚染いくすぢ地の核へ
筋斗雲の悟空と櫓のサンタ交ふ